

敦賀市立地適正化計画（案）市民説明会 意見及び回答

■敦賀市立地適正化計画（案）

No	実施日	主な意見	意見への回答
1	12月18日	市街地の北側に居住を集約していくとのことだが、笹ノ川の浸水想定エリアについて防災対策等について教えてほしい。	⇒ 笹ノ川の河川改修等を県に要望し進めているところであり、現在、来迎寺橋の改修も進められています。また市の方では、TonBoメールやハザードマップの活用、避難誘導等のソフト面を強化し、ハード、ソフトの両面から総合的に対策を行っていきたいと考えております。
2	12月18日	この計画は、最終的に何を指しているのか。市街地の北側や駅周辺に人を集めることを目的としているのか。	⇒ 本計画は、人口減少を迎える中で、これまでのように市街地が拡大していくと、市の財政的な負担など、都市の経営が厳しくなることが懸念され、その課題に対応するため、都市構造をコンパクトにして将来において持続可能な都市経営を図ることが目的と言えます。本市では、市街地の北側に多くの既存ストックが整っており、これらを活用しながら持続可能な都市経営の実現を目指しています。
3	12月18日	居住誘導区域外や都市機能誘導区域外での開発等に対して届出を義務付けているが、それによって郊外に出て行くことを抑制できるのか。	⇒ 届出の趣旨は、行政側として、区域外での開発動向等を事前に把握する点にあります。強制力はありませんが、届出があった際に、その内容を確認し誘導区域内での施策等を説明することで、区域内へ誘導を促すといったことや、また開発が可能な場所があれば、そこをあっせんしたりしていきたいと考えています。
4	12月18日	日用品を販売する薬局やホームセンターなどは郊外部でも重要な商業施設であるが、都市機能誘導区域外に立地することはできなくなるのか。	⇒ ご意見のあった施設は誘導施設に位置付けておらず、これまで通りの立地が可能です。商業施設に関しては大規模小売店を誘導施設に位置付けています。
5	12月18日	まちなかが便利になると人も集まるのだろうが、その結果地価が上がって、そうなると逆に住宅や施設の立地が進まなくなるのではないのか。	⇒ 同様の意見は全国的にもありますが、国の調査では立地適正化計画の策定によって地価が上昇したという事例は現在のところないとの見解がされています。長期的には注視していくことが必要であると考えています。
6	12月18日	計画策定にあたって説明会を2日開催ということだが、もっと多く説明会を開き市民の意見を聞くべきではないか。	⇒ 説明会については、平成29年度に中間説明会ということで、5地区で実施しており、昨年度市民の方に意見をお聞きしております。本年度は、計画案ができあがりましたので、2回説明会を開催し、またパブリックコメント（市のホームページ掲載と市内各地区の公民館に冊子を設置）を実施しており、市民の皆様の意見をお聞きする機会を設けています。また策定の期間でございますが、他の市町は通常2箇年で策定しておりますが、敦賀市では3箇年をかけて策定に取り組んでおり、他の自治体よりも策定に時間をかけております。また策定には外部委員会を設けており、専門家の意見もお聞きした中で、策定や検討を行っております。
7	12月18日	説明にあった通り、郊外部に商業施設が立地し中心部が空洞化しているのが実情である。人の流れを呼び込むには賑わいがないと駄目であるが、民間の商業施設との連携が重要となってくるのではないのか。	⇒ 民間との連携については立地適正化計画のポイントでもあり、誘導施設に位置付けた民間施設について、国が支援する事業ができました。今後、中心市街地や民間活力の導入も含め関係部局と連携しながら検討を進めていきたいと考えております。
8	12月18日	北陸新幹線が敦賀まで延伸されたら、駅周辺の開発ニーズも出てくるのではないのか。駅東側は区域に含まれていないが含めなくてもよいのか。	⇒ 本計画では、駅西側は都市機能誘導区域に含めており、北陸新幹線に関する事業を行っていきたくて考えております。また駅東側は工業地帯であり用途地域も工業専用地域であることから、現時点では駅東側を区域に含めることはできませんので、区域には含めておりません。
9	12月19日	笹ノ川の浸水想定について、現在の笹ノ川は人工の川で元々の河川は現在ほとんど暗渠になっている。今の笹ノ川も水がつきやすいので、旧の笹ノ川も活用して、水がついた際は道路の下などに貯留施設を作って活用して、対応するという事なども考えられないか。	⇒ 本計画にも居住誘導区域内の雨水対策として雨水幹線の整備といった点も盛り込んでいます。今後、雨水対策や浸水対策については、関係部局とも連携を図りながら考えていきたいと思っております。
10	12月19日	居住の誘導を行政が進めるということは無理があるのではないのか。「住む」ということは色々な要素があって決まるもので、なかなか誘導が難しいと思われる。むしろ、住みやすい環境を作って、将来的に若い人達に選んでもらうようにした方がよいのではないのか。	⇒ 非常に重要な意見だと思います。誘導に資する補助支援だけでなく、子育て世代のまちなかへの誘導も基本方針に掲げておりますので、若い人たちにまちなかに住んでもらえるような環境をつくっていきたくて進めていきたいと思っております。
11	12月19日	敦賀市に市営住宅や賃貸で住んでいる人がどんな居住意向を持っているか、定住意向がどんなものかもしっかり探っておくべきではないか。	⇒ 市営住宅の方々に直接聞いてはいたませんが、総合計画のアンケート結果を活用して計画に反映しております。その結果でも定住意向は高いが、若い人達は市外へ出て行ってしまいう傾向があります。今後、見直しの際にその辺の意向を取り入れていきたいと思っております。
12	12月19日	計画は50年くらいのものであるが、コンパクトを目指すことと人口減少が進む中で本当にコンパクトな都市になってしまうのではないのか。20年間の間に人口を増やしていく方策や賑わいを生み出す方策はあるのか。	⇒ 施策を進めていく上では、この計画に基づいて関連する部局が具体的な計画を作って進めていく事になると考えております。そういったことで関係部局と連携を図りながら進めて行きたいと考えております。
13	12月19日	まちなかに多く立地している空き家をどうにか活用できるような具体的な施策を検討するべきではないか。空き家も更地にしておけば、郊外と同様に建てやすい環境が整うと考えられるし、まちなかに住むと固定資産税も高くなるので、減免措置等も考えられるのではないのか。この計画を踏まえて、具体的な対策を検討していく必要があると考えるが。	⇒ 居住誘導を進めて行く施策については本計画にも示していますが、今後も関係部局と連携を図りながら、効果的な施策を考えていきたいと思っております。